

## 第二章：自然災害と持続可能な開発

国連機関や国際機関、政府等の多くは、自然災害と持続可能な開発に重点を置き、活動している。それ故に、特に自然災害に影響を受けた国の人間開発や経済的要因といった持続可能な開発の変数と関連付けて災害傾向を分析することは極めて重要である。次のセクションではグラフと図を使い、この傾向について分析することにする。

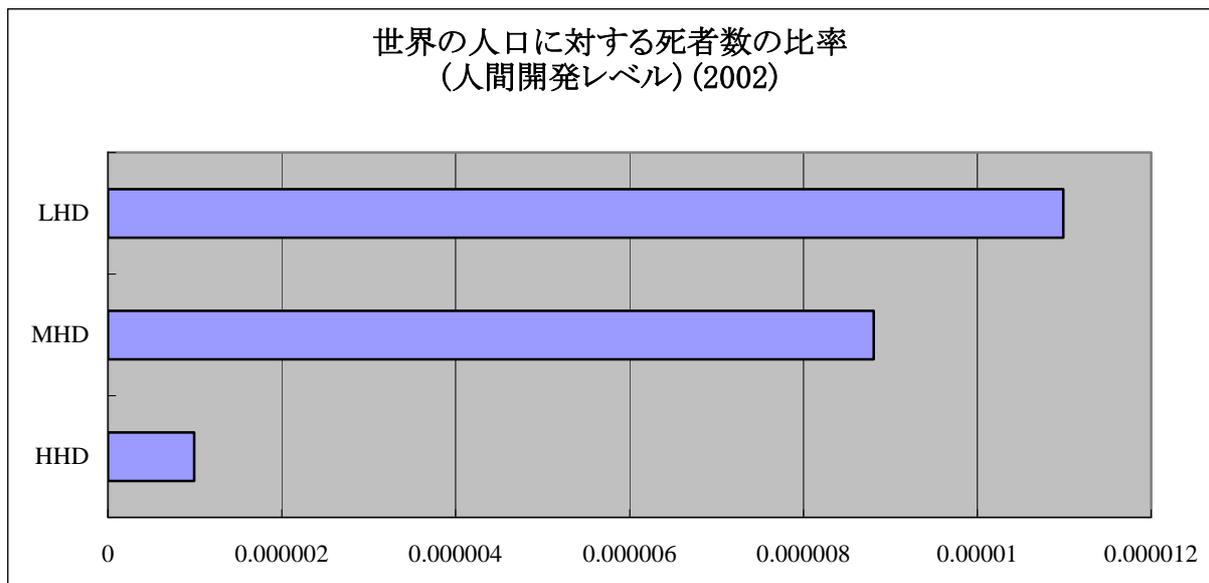
### 2.1 人間開発と自然災害

人間開発レベルとは、一国の識字率・就学率、一人当たりの所得、健康開発をとりまとめたものである。それ故に、このような変数は災害軽減や防災計画、防災管理政策に密接にかかわりあっている。人間開発レベルが高いほど、このような計画や政策、そして災害後の救援活動が簡易化することができる。人間開発レベルは UNDP による分類で、高[HHD] (人間開発指標-0.8 以上)、中[MHD] (0.5~0.79)、低[LHD] (0.5 以下) と区分されている。このセクションでは、災害の特徴はこの人間開発レベルに照らして計算されている。

ここではまた、世界銀行の区分に従って、所得レベルも分類されており、高 (一人当たりの所得 US\$9,266 以上)、中の高 (US\$2,996~9,265)、中の低 (US\$756~2,995)、低 (US\$755 以下) となっている。このような所得レベルでの特徴とも関連させ、災害の特徴を分析する。

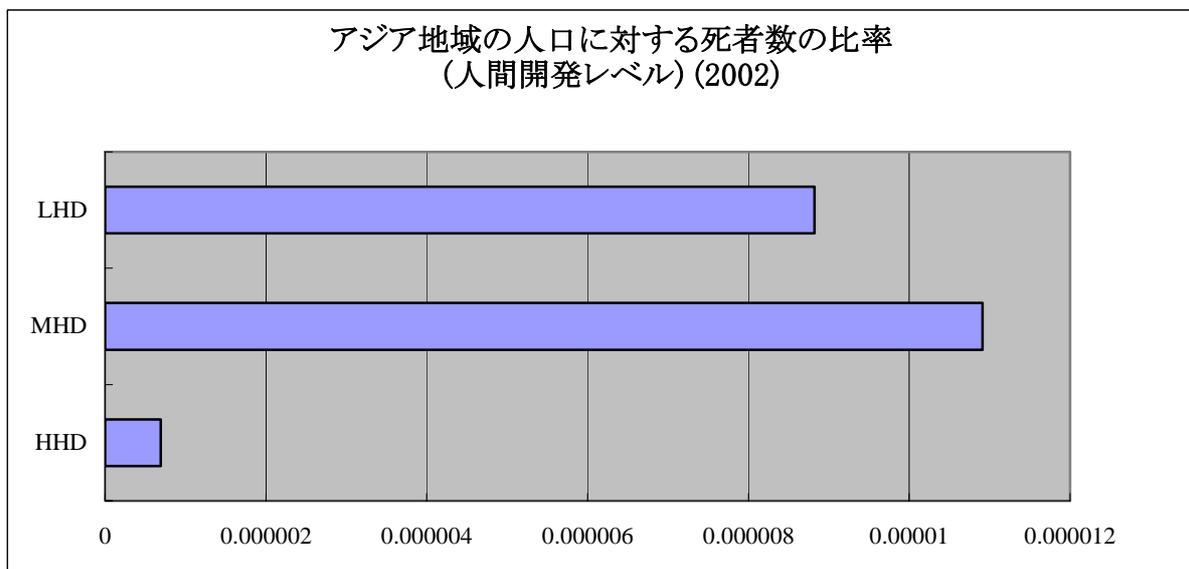
次の図 9~12 は、社会における影響として、人間開発レベルと災害による人的被害の関係を示したものである。それによると、人間開発レベルが低い国では、災害による人的被害・損失の割合が明らかに高く、災害による死者数・被災者数の割合は、中~高の人間開発レベルの国々に比べてはるかに多くなっている。これにより、人間開発レベルは、災害軽減や防災管理政策を策定し、実行する上で大切な要素となってくる。人間開発指標には、識字率、寿命、一人当たりの所得が係っており、このような変数は自然災害による衝撃を減少させるのに大きな役割を果たす。世界又はアジアの開発途上国、低開発国においては、ほとんどの国が低もしくは中レベルの人間開発レベルに位置しており、人的損失もまた多い。そのため、このような地域においてよりよい防災政策が一日も早く必要となっている。

図 9



出典：ADRC（アジア防災センター・日本）、CRED-EMDAT（ルーベンカトリック大学・ベルギー）、UNDP

図 10



出典：ADRC（アジア防災センター・日本）、CRED-EMDAT（ルーベンカトリック大学・ベルギー）、UNDP